島根の地域医療

第62号
2017/10/23
発行者　島根県健康福祉部
医療政策課医師確保対策室

SHIMANE AKAHIGE BANK

今回の紙面

◆地域医療最前線 NO.67《島根県立中央病院　小阪　真二 病院長》
◆看護師さんのページ NO.47《大曲診療所　河角　留里 看護師長》
◆研修医のページ NO.50《益田赤十字病院　原田　愛子 先生》
◆とって隠岐の離島医療体験ツアー
◆「親父の背中」プログラム
◆浜田市中学生夏休み医療体験について

地域医療最前線 No.67

島根県立中央病院
病院長　小阪　真二

島根県立中央病院は、島根県における唯一の県立総合病院として、高度救命救急センター、周産期母子医療センター、がん地域連携拠点病院、災害拠点病院、地域医療支援病院の指定を受け、島根県全体の地域医療を担う病院です。地方における医師不足・偏在は、当院においても例外ではなく、医師数が少なく、機能・受診数を制限せざるを得ない診療科もありますが、医療の質を担保し、地域医療の最後の砦として踏ん張り続けるという使命をもって全職員が頑張っています。

現在、日本においては病院機能分化が進められており、ドクターヘリの基地病院である当院には、高度急性期・急性期医療に特化していく道が示されていると考えますが、島根県のように人口が少なく、また病院も少ない地域においては、急性期以外の患者さんを診ないということは周辺の医療者、住民に対して自治体病院の責務を果たせないと思われ、地域で不足する部分の医療に関して、可能な限り補完していく使命があると考えています。

現在、医療は、病院完結型医療から地域完結型医療への転換を迫られており、今後の高齢化社会に向かって、地域で生活することを中心にした地域包括ケアに医療・介護の中心が移っていくと考えられます。これまでも入退院サポートセンターを設置し、円滑な入院、シームレスな地域との連携を図れるように努力してきており、地域連携は当院において最も大切な事業であると位置づけています。そのために情報通信技術を使った「まめネット」にも積極的に関与し、院内電子カルテの多くの項目を地域医療者に公開し、よりよく情報連携ができるようにしてきました。このような医療情報ネットワークを利用し、より効率よく連携ができるように今後も地域の要望を聞いて、進めて行きたいと考えています。

今年度は地域包括ケア支援プロジェクトを立ち上げ、今後の地域包括ケアの推進に向けて、地域医療者とより連携を密にし、患者さんや地域医療機関が専門的な支援を必要とする場合には、地域に対して可能な限りの支援を行う予定です。

島根県は人口が減少し、高齢化も進んでいますが、地域の絆が強い社会を持っています。顔の見える連携を持続させ、医療を含め、幸福で持続可能な地域社会を作るために努力していきたいと思います。

看護師さんのページ No.47

大曲診療所　看護師長
河角　留里

大曲診療所外来メンバー　前列左から2番目が筆者

【大曲診療所は】

家庭医のいる診療所です。赤ちゃんからお年寄りまで、ご家族みんなの健康をサポートしています。外来診療のほか、訪問診療にも力を入れています。

【当院の訪問診療】

メンバーは3人の家庭医と4人の看護師、3人の事務職員です。主治医と看護師の2人でご自宅に伺っています。訪問診療では24時間365日連絡のとれる体制を確保しています。在宅からの緊急コールはまず看護師が受けます。すべての在宅患者さんについて基礎疾患やどんな病状悪化が予測されるかを把握しており、日頃の生活や介護者の状況なども頭に浮かべながら対応をしています。

【大切にしていること】

患者さんの生活や人生史・価値観も含めて支えること、そしてそれをチーム全体で共有することです。

全スタッフで日頃からディスカッションをしています。疾患だけでなく患者さんのお気持ち、ご家族の様子や介護状況などを共有しています。

この時、私たちスタッフはフラットな関係で、お互いの視点のちがいを認め合うことを大切にしています。医師が一方的に方針を決めるのではなく、各職種がチームの一員として患者さんの幸せのために力を出しあえている実感があり、とてもやりがいがあります。

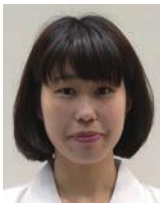
たとえば神経難病のAさん。現在はアイコンタクトでの限られた意思疎通しかできません。また、摂食嚥下障害による肺炎のリスクがあります。Aさんは診断時から一貫して経管栄養は受けたくないと言ってこられ、一方でご家族はAさんに長く生きてほしいとの思いがあります。この背景には「常に自分より周りを大事にしてきた」Aさんの生き方や、一度決めたら最後までやり抜く粘り強さ、遠方から嫁いできて苦労して家族を支えてきた人生史があります。Aさんやご家族にとってより幸せで納得のいく選択とはどういうものなのか。このケースにおいても、様々な視点から話し合いを重ねています。

今後病状の進行など多くの困難に出会うでしょう。在宅では、各専門職や家族がブラットなネットワーク“として患者さんを支えることで、質の高いケアにつなげられると思います。

【看護師にもお気軽にご連絡ください】

診療所看護師も、在宅チームの一員として専門性を発揮しています。病院から在宅に関する相談をいただければお役にたてると思います。またケアマネージャーや訪問看護師からの情報や報告は診療所全体で共有しケアにつなげています。ちょっとした変化でもご連絡いただけると嬉しいです。お気軽にご相談ください。

研修医のページ No.50



益田赤十字病院
研修医
原田　愛子

皆様、こんにちは。益田赤十字病院初期研修医1年目の原田愛子と申します。

私は県内の出身です。初期研修を県外の病院で行おうと考えた時期もありましたが、慣れ親しんだ島根県で働きたいという思いが強くなり、たすき掛けで1年目を益田赤十字病院にて研修させて頂いています。学生の時に感じた研修医の先生たちの雰囲気の良さと、岡本先生をはじめとする指導体制が充実していることから益田赤十字病院を希望しました。益田赤十字病院は、一昨年に新病院へと移転し、山口県の一部を含む益田圏域の急性期の中核病院として地域医療の中心となっています。

実際に働いてみると、各診療科の垣根は非常に低く、どの先生も熱心にご指導してくださっています。また、医師だけでなくコメディカルの方も優しくたくさんの事を教えてくださり、非常に恵まれた環境であると日々実感しています。初期研修医は1年目が7人、2年目が4人の合計11人で賑やかであり、学生さんも実習でよく来てくださるので、和気あいあいとした雰囲気の中で研修医生活を送っています。

ここで、研修の内容を少しご紹介します。私は現在総合診療科をローテートしています。総合診療科では患者さんを主体的に担当させてもらうことができ、診断から治療法までをまずは自分で考え、2年目の先生へ相談し、その後上級医の先生に相談するという屋根瓦式の流れになっています。また、退院後は外来でフォローさせて頂くことができ、入院から退院後まで患者さんを担当させて頂いています。また、週1回エコー検査を行う日があり、侵襲が少なく情報量の多い、エコーをたくさん行えるのも当院の研修の特徴の一つだと考えています。救急外来では主に研修医がファーストタッチで対応させて頂いており、様々な症例を経験しています。

働き出してもうすぐ半年が経とうとしています。ようやく少し慣れてきましたが、医師という仕事の大変さ、責任の重さをひしひしと感じる毎日です。まだまだできないことだらけで、ご迷惑をおかけすることも多いですが、少しでも地域医療の役に立てるよう日々精進して参りたいと思います。

とって隠岐の離島医療体験ツアー

当院は島根半島の北東約70㎞に浮かぶ隠岐諸島の中で面積242㎢と最も大きい島に所在しています。島の医療機関は当院の他に町立診療所5か所と開業医が3か所あり、医師は6名の状況です。このことから、入院患者の受入、救急告示病院として24時間態勢での救急患者の受け入れをはじめとした様々な医療提供体制を構築する必要があります。

医療提供体制の構築のためには、医療スタッフの確保は必須でありますが、医師、看護師をはじめとする医療従事者の確保が困難な状況が続いており、「隠岐広域連合確保困難職種の人員確保及び離職防止対策チーム」を立ち上げました。また今年度から島の医療人育成センターを設置し、病院として一体的に取り組みを行っています。

これまでの取り組みは処遇や勤務環境に関連するものを中心に行ってきましたが、地元出身者のみでは確保が難しい状況にあることから、Iターン者等の確保対策としての取り組みに幅を広げる必要性を感じたところです。

Iターン者等の確保のためには、衣食住といった生活面を含め隠岐の島町を理解していただく必要があります。そこで、隠岐病院の医療現場のみではなく隠岐の島全体を体験してもらうことによって医療スタッフの確保に繋げる取り組みとして、ふるさと島根定住財団の支援事業である「しまね暮らし体験プログラム」を活用させていただき「とって隠岐の離島医療体験ツアー」を開催することとしました。

ツアーは2泊3日で、隠岐病院の職場体験、町の定住情報の紹介、島内観光等の内容で、希望者の都合に併せて随時開催とすることにより参加しやすい設定にしています。離島という地理的ハンデのため、いつでも職場見学などができない中、この事業により離島医療に関心のある方に参加してほしいと考えています。

このツアーは、県外在住者が対象で、食費を除き、本土寄港地から隠岐までの旅費、宿泊費、体験費等が助成され、平成27年度から実施し、本年度までに学生から現職までの8名の参加がありました。医療従事者の確保が困難な中、医療体験ツアーによりすぐ成果がでることは難しいとは思いますが、継続していくことにより、人的ネットワークを広げていきたいと考えています。参加した方から離島医療の情報発信も行われていき、将来の勤務地として選択肢の一つとなればと願っております。

離島にある唯一の総合病院として、当院の基本理念である「この島に住む、安心の医療」の実現に向け、医療提供体制の確保に向けて今後も様々な取り組みを行っていきたいと考えています。

【隠岐広域連合立隠岐病院（島の医療はあなたとともに実行委員会）齋賀】

「親父の背中」プログラム

合同会社ゲネプロ代表の齋藤学と申します。

ゲネプロは、離島へき地に挑戦する志を持つ医師を全国各地から募り、「あらゆる場所で闘える総合診療医」を育成する研修プログラムやワークショップを提供しております。

事の始まりは、益田市医師会の前会長が、朝日新聞に掲載されたゲネプロの記事を目にされたところからでした。日本全国の離島へき地における医療を充実させたいゲネプロと、長年に渡り慢性的な医師不足の解消に苦心してこられた益田市医師会。そんな両者が巡り合ったのは、もはや必然であったとさえ言えるかもしれません。

益田市には、研修医を受け入れる"土壌"と、医師が育つために必要な"気候"。そして、育ちゆく医師を適切に導く意志と実力を兼ね備えた"親父"の全てが揃っていました。

そうして、益田市医師会の全面協力の下、総合診療医を養成するための研修プログラムである「親父の背中」プログラムの構想が完成。さらに、日本医師会の横倉会長からの力強いサポートを受け、先月には、東京で開催された同医師会の定例記者会見の場において、同プログラムの発足と始動を正式に発表されており、来年4月より益田市にて始動を迎える運びとなっております。

また、同プログラムは、日本初の試みとして、開業医の先生方の外来にも学ぶ研修方式を採用しております。

整形外科や耳鼻科、皮膚科に小児科

に泌尿器科から、慢性期におけるフォローアップや漢方薬の使い方、さらにはへき地診療所の代診に至るまで、「自分の強化したい分野」に関する科目について、経験豊富な開業医の先生方から直接の指導を受けることが可能です。

さらに、プログラムの軸足は益田医師会病院に置かれる予定であり、医師会病院による指導の下、総合内科病棟における入院管理や内視鏡、地域のニーズに合わせた人間ドックや嚥下訓練を含めたリハビリ、医師会と連携した在宅医療などについても、実践的に研修することが可能となります。

なお、先日には、長年地域に根差してきた開業医の持つ"匠の業"に焦点を当てたワークショップ「Rural GP Masterclass」を同市にて開催するに至り、全国から16名もの若手医師が駆け付け、"親父"たちからの熱い講義と薫陶を受けました。

今後、ますます日本の医療において重要な存在となるであろう総合診療医を育てる上で、益田市は間違いなく高い潜在能力を秘めていると確信しており、島根県内外を問わず、一人でも多くの方にその魅力を伝えることができればと思っております。

ゆくゆくは、「親父の背中」ならぬ「お袋の味」プログラムも実現させたいところです。

【合同会社ゲネプロ　齋藤】

浜田市中学生夏休み医療体験について

浜田市は、県西部に位置し、東京23区とほぼ同じ面積で、人口約5万5千人の自然豊かで漁業が盛んなまちです。

ちなみに、市の魚は「のどぐろ」で、島根県出身のプロテニスプレーヤー錦織圭さんも大好きな魚として全国的にも有名になりました。

さて、浜田市では、医師、看護師など医療従事者確保のための事業の一つとして、平成20年度当初から夏休みを利用し、市内の国保診療所での1日医療体験実習を実施しています。これは、中学生の段階から医療への関心を持ってもらうため、キャリア教育の一環として取り組んでいるものです。

平成29年度も8月に実施し、市内3中学校の1年生5名と2年生1名の計6名が参加し、それぞれ2つの診療所で1日医療体験実習を行いました。

はじめに、医師、看護師、事務職員から診療業務について説明を受けた後、診察室で医師と患者とのやりとりを間近で見たり、患者さんへの聴き取りをしたり、訪問診療に同行したり、聴診器などの医療機器に触れたりと、色々な体験をしてもらいました。

参加した生徒さんからは、「患者さんとの会話が大切だと思った」、「最初思っていた以上にいろんな経験をさせてもらい勉強になった」、「将来の目標が具体的になってもっと勉強しないといけない気持ちになった」など、体験を踏まえたいろんな感想を寄せてもらいました。

体験後、診療所長から「終了証書」としまね地域医療支援センターから提供いただいたグッズを渡し、最後に記念撮影も行いました。

過去には、この実習に参加し、現在、医学部に進学している学生もいます。今後も、この医療体験活動に取り組み、将来、地元浜田の地域医療を支えてくれる人材が育つよう願っています。

【浜田市地域医療対策課　市原】

島根県で勤務していただける方を紹介してください！

友人・知人に島根県での勤務を希望される医師がおられましたら、是非ご紹介ください。
ご紹介いただいた先生には、医療機関の情報等を提供し、U・Iターンを支援します。

医師募集・地域医療視察ツアー参加者募集

島根県は県内で勤務いただける医師を求めています。全国どこへでも専任の医師が出張し、具体的な相談に応じます。また、地域医療の視察ツアー（県負担）を実施しています。お気軽にお問い合わせください。

「赤ひげバンク」の登録者のみなさんへ

住所等に変更があった場合は、メールでお知らせ願います。

〒690-8501　松江市殿町１番地　島根県健康福祉部 医療政策課 医師確保対策室
TEL 0852-22-5693　FAX 0852-22-6040
E-Mail：iryou@pref.shimane.lg.jp　ホームページ：島根の医師確保対策　検索

携帯からの問い合わせはこちら→